



## 第 30 回 縮小社会研究会報告

34名が参加。

講演者は江戸および縄文社会とこれからの縮小社会との関係を念頭に置き、江戸と縄文社会の生活について論じた。鬼頭氏は人口を切り口に文明の成長と停滞を論じ、縮小社会像を示すことが重要であるとした。また、羽生氏は縄文時代の分業など、これまでに無い視点から現在社会との対比をしながら論じた。

### -----案内-----

縮小社会について考えるとき、昔の生活の戻るのかといわれます。戻ることは不可能ですが、明日を切り開くには、過去を知ることは必要です。

時：2015年9月5日

所：日本基督教団根津教会 〒113-0031 東京都文京区根津 1-19-6

講演会 (非会員の参加も歓迎します。会費：会員は無料、非会員は500円)

13:00-14:30 「縄文人の食べ物と文化の盛衰」

羽生淳子氏 (総合地球環境学研究所教授、Prof. Department of Anthropology, University of California, Berkeley)



環境考古学と生態人類学の立場から、地域と地球環境問題の解決に役立つ発信を続けている国際的考古学者。先史時代から現在の環境問題まで、何千年を見渡した講演をしていただきます。

14:45-16:15 「江戸時代の生活：持続可能な循環型社会だったか？」

鬼頭宏氏 (静岡県立大学学長)

人口を抑制しながら生活水準を向上させていった江戸時代日本。限られた資源を有効活用し、森林を育成、環境にやさしい成熟した社会を実現させた。リサイクルなど現在の課題にも通じる地球との共存を、歴史人口学者、鬼頭先生が解説します。(環境先進国江戸、吉川弘文館より)



16:30-17:00 質疑

懇親会：17:30-19:30

一般社団法人 縮小社会研究会 〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前 21 石川ビル 305  
e-mail: [jimukyoku@shukusho.org](mailto:jimukyoku@shukusho.org) HP: <http://shukusho.org/>